

# 白山国立公園の保護と利用に関する登山調査中間報告

島 木 正 則 石川県白山自然保護センター  
 早 川 禎 二\* 石川県白山自然保護センター

## THE INTERMEDIATE REPORT ON THE CONSERVATION AND UTILIZATION OF THE HAKUSAN NATIONAL PARK

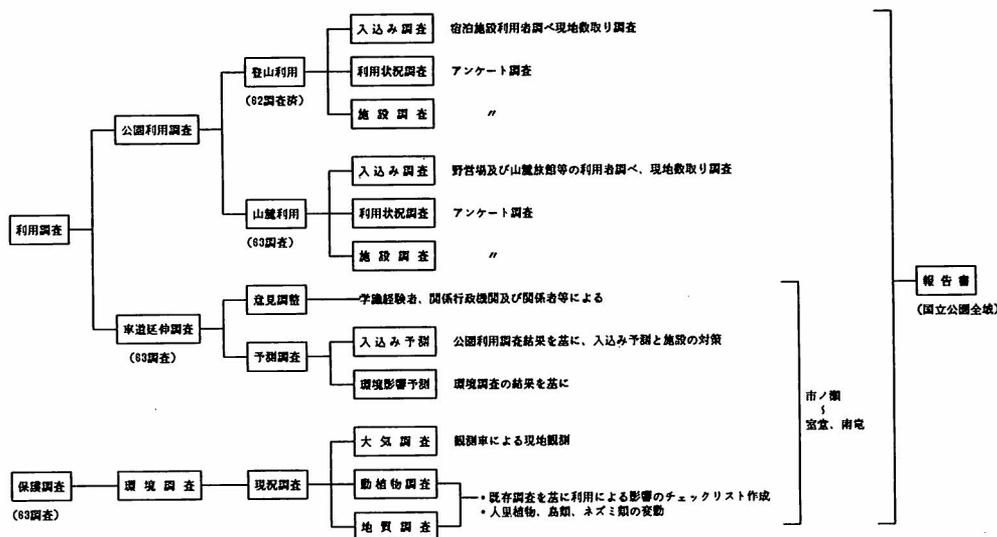
Masanori SHIMAKI and Teiji HAYAKAWA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

### はじめに

白山のすぐれた自然と豊かな高山植物を保護し、これまで以上の利用を図る目的で、昭和62年・63年の2ヶ年にわたり調査(表-1)を実施することになった。

昭和62年度は、これらのうち登山利用について、入り込み状況の把握、利用者の形態・動向及び意向、現地調査及びアンケート調査を行なったので、以下にその概要を報告する。

表1 白山国立公園の保護と利用に関する調査表



### 入り込み調査

白山国立公園での快適な利用と適正な保護を図るため、登山者の入り込みを年度別、月別、曜日別の現況を把握し、今後の施設の充実や、登山規制等適確な対応策を見出すその基礎資料となる登山者

\*現在 小松林業事務所

数は、(財)白山観光協会調べの室堂・白峰村調べの南竜の宿泊者数である。なお、年度別登山者推移では、前記の宿泊者数に日帰り者数(調査結果による推定日帰り者数)を加算したものである。

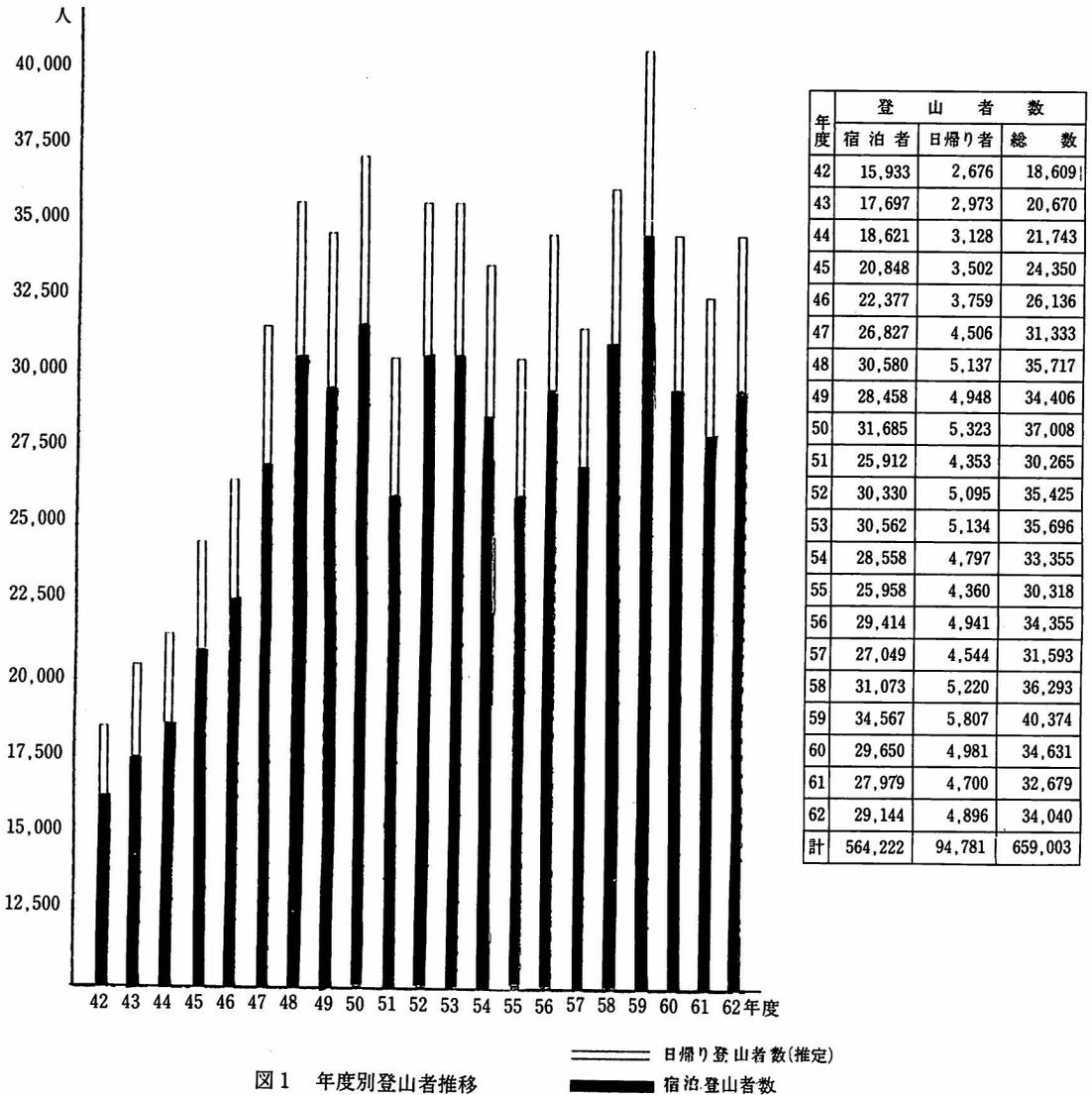


図1 年度別登山者推移

表2 昭和62年の登山者数

宿泊施設	宿泊者数	調査日の下山者数			推定登山者数
		総数	日帰り	日帰り率	
室堂	23,541	/	/	/	/
南竜	5,603	/	/	/	(野営場合む)
計	29,144人	3,432人	576人	16.8%	34,040人

島木・早川：白山国立公園の保護と利用に関する登山調査中間報告

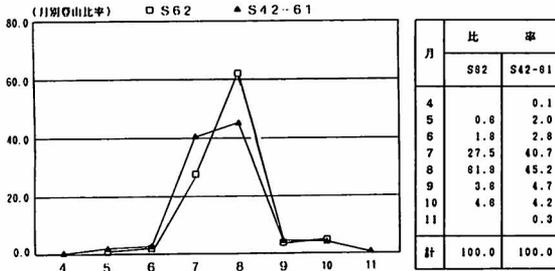


図2 月別登山者推移

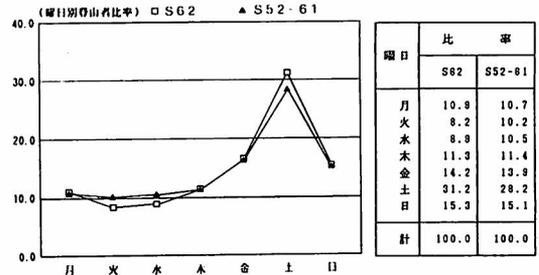


図3 曜日別登山者推移

アンケート調査

調査用紙（白山登山アンケート調査）5000部作成し、自己記入方式で行った。調査用紙の回収に当っては山頂宿泊施設の室堂・南竜で、宿泊申し込み時に調査協力を依頼し回収した。山麓施設や山小屋にあっては、調査用紙を置き回収箱を設置した。郵送については登山者名簿より抽出し、郵送により回答を依頼した。それらの回収率は53.6%で、その内訳は表-3のとおりであった。

表3 アンケート用紙の配布・回収と記入場所

配布先	市ノ瀬	別当出合	室 堂	南竜	避難小屋	郵送	日帰り対象	その他	計	備 考
配 布 部	700	200	3,000	600	100	200	200	—	5,000	
回 収 部	299	136	1,508	381	39	149	164	2	2,678	無回答84含まず
回収率 %	42.7	68.0	50.3	63.5	39.0	74.5	82.0	—	53.6	
調査地比 %	11.2	5.1	56.3	14.2	1.5	5.6	6.1	—	100.0	

(調査期間：62年7月～62年10月)

(1) 登山者の形態調査

表4 登山者の性別

調査年度	男 (%)	女 (%)	対象人数	無回答	調査総数	備 考
50年宿泊	68.8	31.2	31,685		31,685	白山観光協会調べ
62年宿泊	61.7	38.3	29,144		29,144	〃
62年日帰り	81.5	18.5	226	1	227	アンケート調査

表5 登山者の年齢層

調査年度 \ 年代	～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	記入なし	調査総数
50年宿泊	0.6	19.5	51.7	16.4	8.0	2.7	0.9	0.2	4人	985人
62年宿泊	2.0	14.5	17.8	28.2	25.3	9.0	2.6	0.6	88	2,598
62年日帰り	—	6.2	20.4	33.6	27.0	9.3	3.5	—	1	227

表6 登山者の構成と関係

構成別	人数	割合	構成別	人数	割合
一人	290	11.5	家族	1,116	53.7
二人	512	20.2	友人	428	20.6
三人	351	13.9	職場	257	12.4
四人以上	1,374	54.4	学校	94	4.5
計	2,527	100.0	町内会	18	0.9
			その他	164	7.9
			計	2,077	100.0

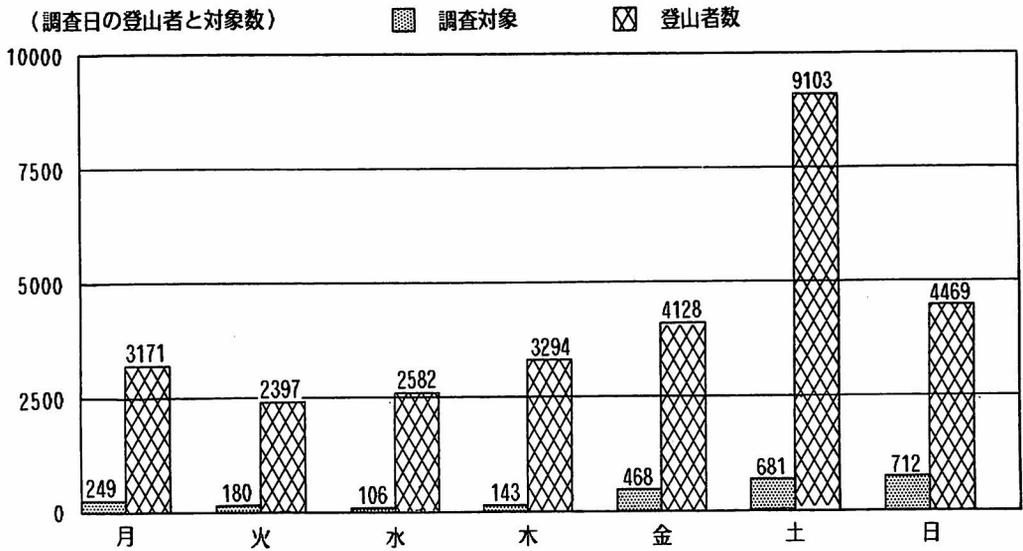


図4 調査日(曜日別)と入り込み関係

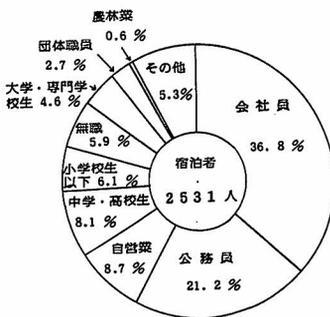


図5 登山者の職業

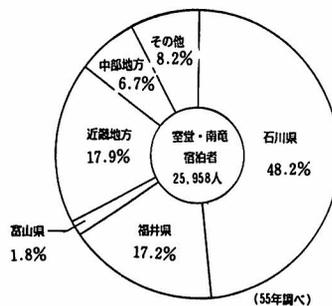
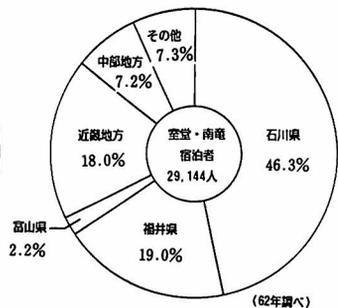


図6 登山者の住所



(2) 登山者の動向調査

登山口までの利用交通機関と、登山利用コース、日程及び宿泊場所について、登山者の動向を調査した結果は、次のとおりであった。

表7 白山登山の回数

調査年度	回数	初めて	2回目	3回以上	無記入	調査総数
50年宿泊		55.7%	18.1%	26.2%	11人	985人
62年宿泊		42.2	18.2	41.6	65	2,598
62年日帰り		37.8	15.8	46.4	5	227

表8 登山道の利用状況

登山コース		利用者数	利用率	利用順位
室 堂 コ ー ス	砂防往復	402人	17.33%	1
	砂防・観光	369	15.91	2
	砂防・エコーライン	310	13.36	3
	観光・エコーライン	135	5.82	4
	観光往復	112	4.83	5
	エコーライン往復	112	4.83	5
	平瀬往復	73	3.15	8
	その他24コース	103	4.43	—
小計(31コース)		1,616	69.66	—
室 堂 ・ 南 竜 コ ー ス	砂防・展望	106	4.57	7
	砂防・トンビ	73	3.15	8
	観光・トンビ	56	2.41	10
	平瀬・南竜	52	2.24	12
	その他94コース	323	13.92	—
小計(98コース)		610	26.29	—
南 竜 コ ー ス	南竜往復	55	2.37	11
	その他7コース	30	1.29	—
	小計(8コース)		85	3.66
その他のコース(3コース)		9	0.39	—
計(140コース)		2,320	100.00	—

表9 登山日程

宿泊日数	宿泊人数	割合
一泊	1,978	79.6
二泊	389	15.6
三泊以上	119	4.8
計	2,486	100.0

表10 宿泊場所

宿泊場所	人数	割合
室 堂	1,994	73.6
南竜山荘	395	14.6
登山口の旅館	102	3.8
登山口の車中	9	0.3
野営場	163	6.0
避難小屋	46	1.7
計	2,709	100.0

野営場内訳 南竜133人、市ノ瀬20人、大白川1人  
 避難小屋内訳 チブリ17人、ゴマ平4人、小桜平3人、  
 その他10人

(2泊以上の複数回答)

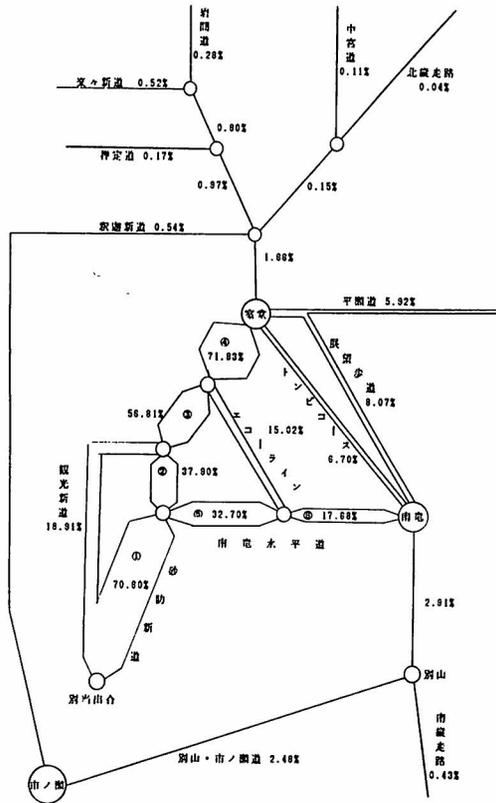


図7 登山者の流動状況

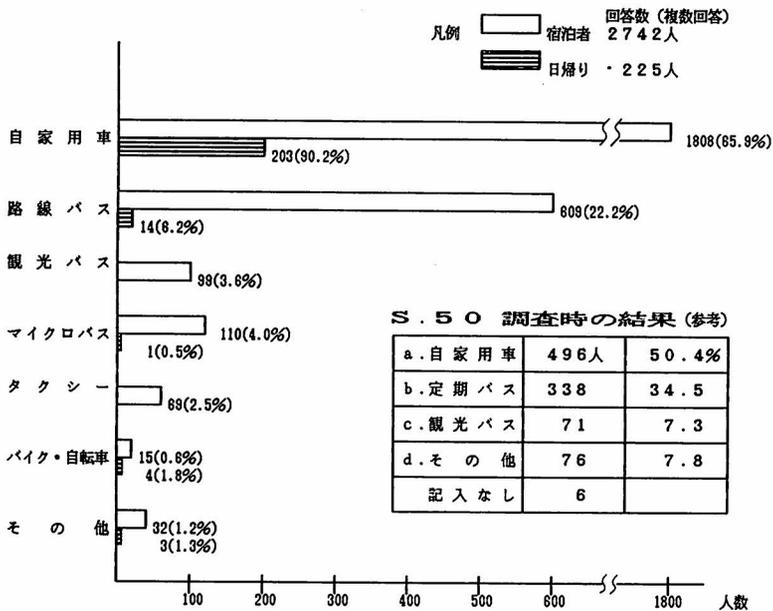


図8 登山口までの利用交通機関

(3) 登山の意識調査

登山の目的、感想等について、登山者からの意識調査を実施したところ、結果は次のとおりであった。

表11 登山の目的・理由

(3つ以内の複数回答)

項目	人数	割合
1. 自然観賞	1,965	33.2
2. 山が好き	1,285	21.7
3. 御来光	687	11.6
4. 体力増進・健康管理	572	9.7
5. レクリエーション	487	8.2
6. 教育のため	183	3.1
7. 付き合い	174	2.9
8. 涼しさを求めて	147	2.5
9. 高い山だから	107	1.8
10. サークル・クラブ活動	99	1.7
11. 白山信仰	92	1.5
12. その他	127	2.1
計	5,925	100.0

自然観賞内訳

項目	人数	割合
雄大な景色・展望	953	54.3
高山植物	706	40.3
火山・地形・地質	48	2.7
動物	47	2.7
計	1,754	100.0

(無回答 211人)

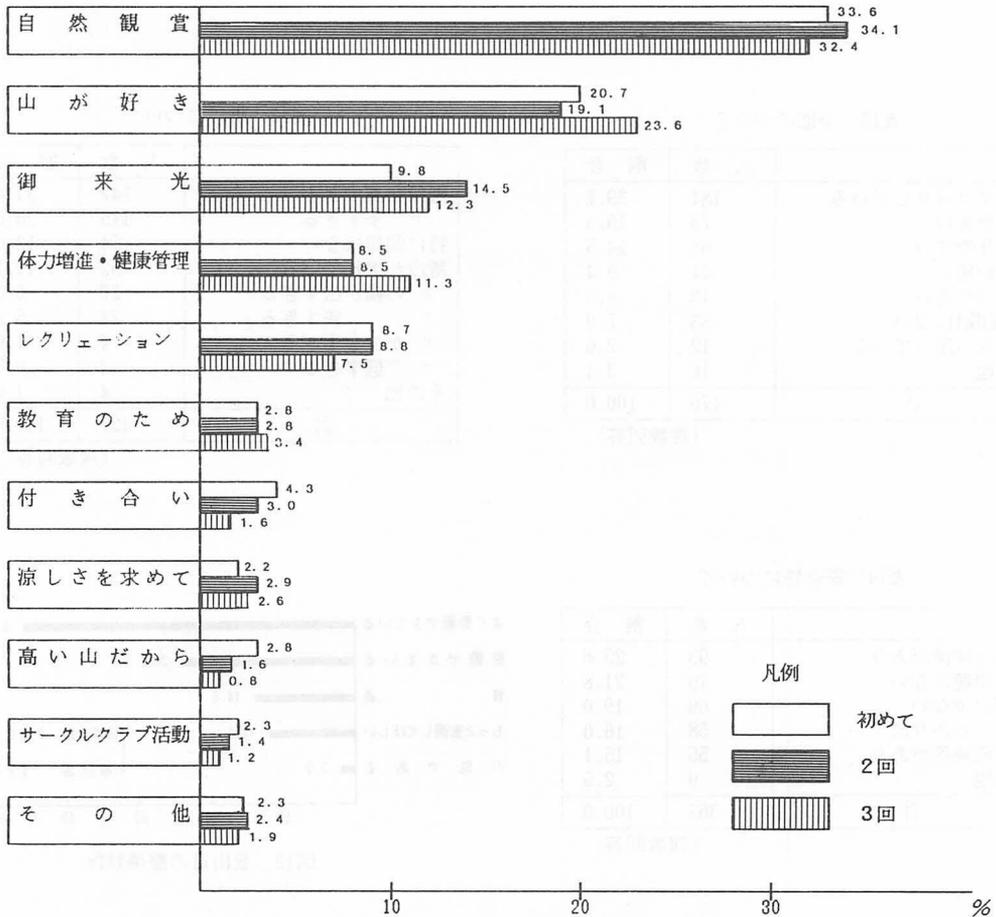


図9 白山登山回数と目的・理由

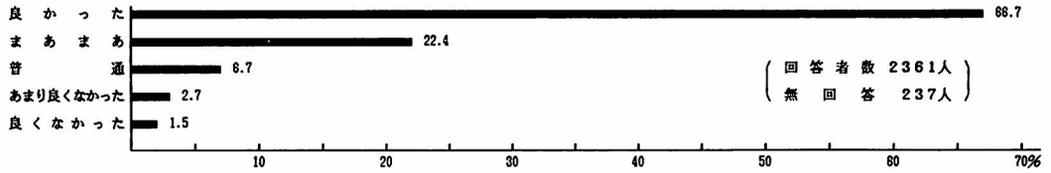


図10 登山の感想

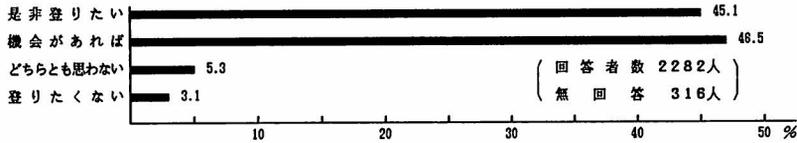


図11 再度の白山登山

(4) 施設に対する意見

登山道の整備状況・宿泊施設の充実度及び避難小屋の利用目的・利用状況に対し、意見調査をした結果は、次のとおりであった。

表12 歩道について

	人数	割合
石がゴロゴロしている	184	39.1
急坂が多い	73	15.5
すべりやすい	68	14.5
道幅が狭い	44	9.4
水はけが悪い	40	8.5
特に問題はない	33	7.0
草が生い茂っている	12	2.6
その他	16	3.4
計	470	100.0

(複数回答)

表13 階段について

	人数	割合
階段が高すぎる	147	34.4
〃 多すぎる	115	26.9
特に問題はない	54	12.6
階段が壊れている	52	12.1
〃 の幅が広すぎる	27	6.3
〃 狭すぎる	22	5.2
〃 が少なすぎる	4	1.0
〃 低すぎる	2	0.5
その他	4	1.0
計	427	100.0

(複数回答)

表14 安全性について

	人数	割合
転落危険箇所あり	93	25.6
特に問題はない	79	21.8
道標が少ない	69	19.0
〃 わかりにくい	58	16.0
落石危険箇所あり	55	15.1
その他	9	2.5
計	363	100.0

(複数回答)

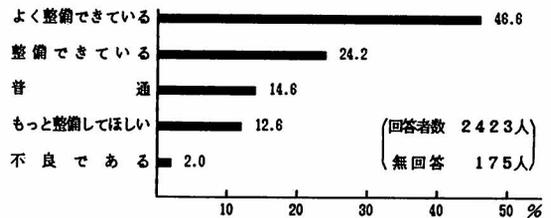


図12 登山道の整備状況

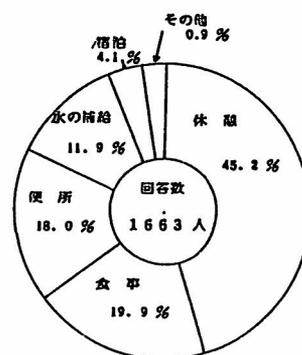
表15 宿泊施設に関する意見

	満足	普通	不満	計	無回答	不満内容
A 建物 (人) (%)	784 34.8	1,277 56.6	194 8.6	2,255 100.0	343	狭い、戸にきしみ、消灯が早い、シャワーがない、乾燥室がない
B 食事 (人) (%)	392 19.5	1,278 63.6	339 16.9	2,009 100.0	589	味、メニュー、待時間が長い、外で待たされる。
C 寝具 (人) (%)	287 13.1	1,320 60.0	592 26.9	2,199 100.0	399	狭い、毛布が汚い、枕がない
D 水飲場 (人) (%)	622 27.8	1,308 58.6	303 13.6	2,233 100.0	365	水場を増してほしい、チブりに水飲場を、
E 便所 (人) (%)	661 29.2	1,145 50.6	458 20.2	2,264 100.0	334	汚い、屋外で不便、夜水が出ない
F サービス (人) (%)	440 19.8	1,567 70.7	210 9.5	2,217 100.0	381	接客態度が悪い(バイト、受付)
G 全体の印象 (人) (%)	1,698 74.4	381 16.7	203 8.9	2,282 100.0	316	

表16 避難小屋の利用状況

	人数	割合
利用した	1135	49.8
利用しなかった	1144	50.2
計	2279	100.0

(無回答 319人)



(2つ以内の複数回答) 回答数1663

図13 避難小屋の利用目的

#### (5) 交通規制に対する意見

夏山の登山ピーク時において別当出合駐車場が満車になった時点で、市ノ瀬にてマイカーを対象に交通規制を実施している。その意向を調査した結果、次のとおりであった。

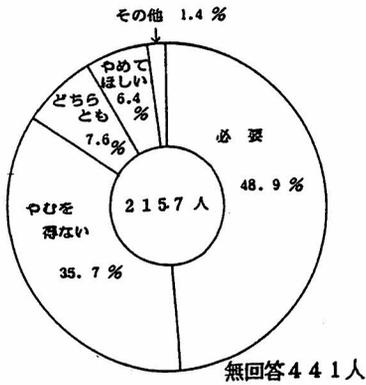


図14 規制に対する意向

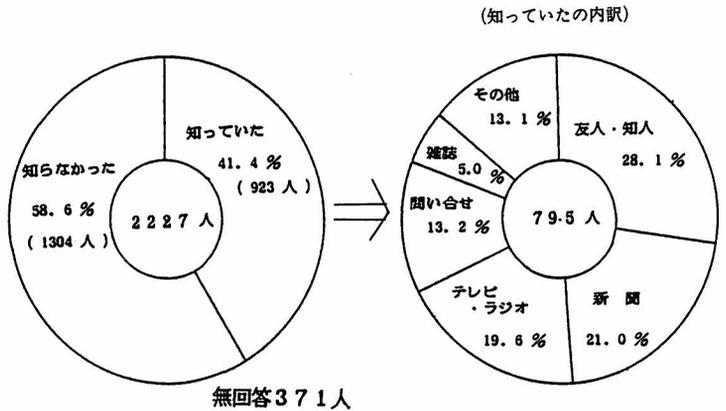


図15 規制に対する周知状況

ま と め

1. 入り込み調査の結果について

白山国立公園に登山を目的とした入り込み者数は59年の40,374人を最高に、47年から62年の間は34,000人前後を推移している(図一1)。入り込み者数の把握は、宿泊者においては宿泊施設利用者名簿で、日帰り者数は既存調査や当調査での結果から推定した。月別の登山者では、7月・8月がピークで85%以上を占め(図一2)、曜日別では、土曜を最高に日曜・金曜の順で(図一3)、数年来、同様の傾向が続いていた。特に、ピーク時の山頂の宿泊施設にあっては、定員の3倍以上の入り込みとなることがしばしばあり、苦情やトラブルが絶えないことから、早急に解決策を検討しなければならないと思われる。

2. アンケート調査の結果について

登山者の形態・動向を把握するとともに、登山の目的・感想及び施設等に対する登山者の意見を聞いた結果、形態調査での男女別入り込み者数の推移では近年女性の増加傾向が伺える(表一4)。登山者の年齢調べでは表一5から、20代の青年層が主体であった50年時の調査結果に比べ、今回の調査では、30から40代の中年層が主体となっていることがわかった。昭和50年調査当時の登山者が現在も登山を続けているといえ、このことは後述の登山回数及び再度の登山調べでも明らかである。また日帰り登山では、男性を主体とした20から40代の健脚者で占められていた。

登山者の構成内容は、半数以上が4人以上のグループで、その内訳は家族登山が主体であった(表一6)。

表一7の登山回数調べでは、昭和50年の調査で「初めて」と回答した登山者が多かったのに対して、今回の調査では58%の人が経験者であり、しかも40%以上の人が3回以上の経験者であった。

登山者の動向として、登山口までの利用交通機関は図一8に示されるとおり、自家用車による入り込みが、年々増加傾向にあり、今後も増加することが予想される。そのため駐車場問題や交通安全対策等深刻な問題として対応が必要である。

登山の利用コースとしては表一8のとおり、4通りのコースに分け取りまとめた結果、室堂を利用した登山者が96%を占めた。利用コースのベスト5は砂防往復コース・砂防→室堂→観光コース・砂防

→室堂→エコーコース・観光←室堂←エコーコース・観光往復コースであり、この5コースで47%を占めていた。また、今回の調査で、利用コースが140通りと多くあることも判明した。登山者の流動状況については、図-7から登山者は、砂防新道を主体とした室堂集中型であったことから、室堂を重点箇所として保護及び整備計画の対応を図らなければならない。

日程・宿泊場所については、前述の登山コースと深い関係を示すが、白山にあつては、表-10のとおり室堂・南竜の宿泊施設を利用した一泊型登山が主体であった。

登山に対する意識調査での登山の目的(表-11)は、白山の雄大な景色・展望や高山植物を主体とした自然観賞が第一であったことは、白山が原始性の高い自然と豊かな高山植物で象徴されているためと思われる。なお、白山信仰を目的とした登山が11番めと低く信仰登山の山としては意外な結果であった。登山回数と目的の関係についての調査結果は、初心者も経験者も登山に対する目的(図-9)は、同様な傾向であった。このことは、前述からも白山の自然美を象徴したものと思われる。

登山の感想に対する設問では、90%の登山者が良かったと回答し、しかもその大部分の人が再度挑戦したいとの答えであった(図-10, 11参照)。その理由として比較的登りやすく高山の自然体験が出来ることに、白山の特徴があると思われる。施設に対する設問では、登山道の評価は高かったが、不良又は整備すべきとの回答も約15%あった。その内容は、「石がゴロゴロしている。」「階段が多すぎる。」「転落危険箇所がある。」等であった。このことについては、地形、地質等の関係で技術的にも問題があると思われるが、早々に現地検討や調査を行ない、対応したい(図-12, 表-12・13・14参照)。宿泊施設に対する調査(表-15)では、山頂の宿泊施設として総体的には満足されているが、20%以上の不満回答は、寝具・便所であり、混雑時ほど不満の割合が高くなっていることから、その対策に当って十分検討し、快適な登山が出来るよう配慮する必要がある。

避難小屋の利用目的は、休憩・食事・便所・水の補給の順であったが、利用状況は天候、混雑度合により大きく左右される傾向である。(図-13・表-16参照)

毎年の登山ピーク時には、別当出合と市ノ瀬の両駐車場で24時間体制の交通整理にあたってきたが、路上駐車をはじめ、交通整理員とドライバーのトラブルが発生する等問題が多かったため、62年の夏山登山ピーク時の一定期間において交通規制を試行した。その結果、路上駐車や交通整理員とドライバーのトラブルも少なくスムーズに対応出来た。なお、登山者からの規制に対する反応も図-14のとおり85%の賛成回答であったが、その周知の徹底度に関しては図-15のとおり41%と意外に低かったため、その手段を検討しなければならない。以上の結果は、登山を目的とした公園利用者を対象に、登山者総数の7.9%に当るアンケートを集計したものであり、白山国立公園の保護と利用に関する登山調査の中間報告としたい。

